令和２年度

全中道研　会報

No. 3　　令和３年１月 28 日

全日本中学校道徳教育研究会

全中道研として推進すべき取組

令和２年度 全日本中学校道徳教育研究会
会長　吉田　　修

新年あけましておめでとうございます。本年も全中道研の活動にご支援、ご協力いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

いよいよ令和３年がスタートしました。今年は干支で言うと丑年です。「丑」は中国で生まれた漢字で、本来の意味は「からむ」という意味があり、芽が種子の中で伸びることができない状態を表しているそうです。「牛」は古くから食牛や乳牛、耕牛と呼ばれ酪農や農業で人々を助けてくれる存在として重要な生き物でした。大変な農業を地道に最後まで手伝ってくれる様子から、**丑年は「我慢（耐える）」や「発展の前振れ（芽が出る）」**を表す年になると言われているそうです。

昨年を振り返りますと新型コロナウイルス感染拡大によって全世界がウイルスの脅威にさらされ、今でも不安の日々を送る毎日が続いております。研究大会や地区の研修会も中止もしくは縮小して取り組んでいると言う話を聞いております。

一方で新たな取組でこの難局を乗り越えようとしている地区もあるようです。具体的には、ＧＩＧＡ教育の推進に伴いタブレットを用いた遠隔授業や授業方法の模索です。まさに今年一年は、耐えながら新しい取組で発展する前触れのような気がします。

全中道研としては、会員皆様のお力になれるように取り組んでいく所存であります。

全中道研として今まで培ってきたことを大切にし、地固めをするのに良い年ということになると思います。今年はコロナウイルス禍であってもしっかりと地に足をつけて具体的な実践活動に移していきたいと思います。

改めて、今年重点的取り組むテーマとして道徳教育と道徳科を発展させるビジョンで以下のテーマを掲げます。

１　組織体制の充実と強化

全国の道徳教育発展には、副会長会の果たす役割は大きいです。会長をはじめとする９ブロックの副会長、事務局長が話をする機会を増やしてまいります。また副会長の皆様には各県の理事の皆様と協力しその地域の道徳教育の発展に尽していただければと思います。組織強化を全中道研が担っていきます。

２　情報共有と情報発信

ホームページの充実を図り、会員の皆様に多くの情報を提供し発信いたします。会報の発行回数を増やし情報共有を図ります。さらに実践事例集を隔年で発行していきます。

３　研究大会の支援

上廣倫理財団、石橋財団のご支援のもと各ブロック、全中道研大会発表地域に対し援助します。全中道研大会発表地域に対しては事務局が直接訪問し大会を支援いたします。

４　研修会の充実

道徳教育推進教師育成講座の充実はもちろんのこと、地区研修会等の要請があれば全中研として必要に応じ協力します。

九州地区の活動状況及び
令和３年度全国沖縄大会
について

令和２年度 全日本中学校道徳教育研究会
副会長　有馬ゆかり

１　九州地区の活動状況について

令和２年度は､第 46 回九州地区道徳教育研究大会大分大会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、残念ながら中止を余儀なくされた｡そのため、大会時に開催していた九州地区道徳教育研究協議会理事会もできず、協議事項等は書面によるものとなった。

九州各県においても、研修会等に県全体で集まることができず、各県内の地区ごとに研究を進めている状況である。

このような中､長崎県と熊本県においては、今年度予定していた県大会の来年度延期を決定して、道徳研究を続けている。また、宮崎県は、次の九州大会開催地として準備を進めている。

２　令和３年度全国沖縄大会について

新型コロナウイルスは、令和２年度で収束する気配がなく、それどころかこれまで以上の感染状況である第３波に見舞われている。令和３年度の全国大会は、沖縄県で開催予定であるが、沖縄県の感染についても深刻な状況が続いている。

このような状況の中での全国大会開催は、大会会場校の生徒の安全確保が難しく、全国各地からの参加者も少なくなることが予想される。また、感染拡大により、大会直前の中止も考えられ、大会の通常開催は難しい状況にある。

昨年 12 月 12 日(土)に、全中道研事務局と沖縄大会関係者による全国沖縄大会に関する第１回検討会がオンラインで行われた。全中道研事務局からは、参集せずに、全中道研のホームページ（以下、「ＨＰ」）を活用した大会運営が提案され、沖縄県大会関係者もこの方向性で意見が一致した。

九州地区代表の副会長として、私もオンライン検討会に参加したが、全中道研事務局の「研究を止めずに、コロナ禍の中でもできることをして道徳研究を進めていく」という姿勢と、その想いに応えていこうとする沖縄県大会関係者の熱い気持ちを強く感じた。

３　全国沖縄大会主題（仮）について

現在、沖縄県では、全国大会開催に向けて大会主題の検討等が行われている。令和３年１月 15 日現在検討中のものということだが、ここに紹介させていただく。

【大会主題（仮)】
豊かな心をもち
共によりよく生きる力を育む道徳教育の展開
～主題に迫る発問を通した
道徳科の授業づくり～

本研究では、教材における中心発問を生かし、主題に迫る発問へと展開する授業を構築する。そのために、多面的・多角的な思考を促す補助的発問や問い返し的発問などを駆使するようにする。道徳科において、教師の指導力・授業力が問われる場面である。

道徳科の授業を通して、生徒一人一人が、これまでに習得した道徳的価値をさらに深めるよう理解させ、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える思考を活性化させ、人間としてよりよく生きようとする態度を身に付けさせるようにしたい。

４　おわりに

コロナ禍の中、生徒の心を育てることがより一層大切になっている。全国沖縄大会に向けて、沖縄県とともに九州各県も頑張って研究を進めていきたいと考えている。

第 49 回関東甲信越中学校道徳教育研究大会千葉大会に関わる研究実践報告と埼玉大会に向けて

令和２年度 全日本中学校道徳教育研究会
副会長　島方　勝弘

１　関東甲信越中学校道徳教育研究大会千葉大会の取組

第 49 回関東甲信越中学校道徳研究大会が、11 月 13 日（金）に浦安市立日の出中学校において開催予定であったが、コロナ禍により中止となった。令和元年度から開催に向けて取り組んでこられた千葉県教育研究会道徳教育部会の研究内容について報告する。

（１）研究会の取組

①研究主題

「豊かなかかわりを通して、他者と共によりよく生きようとする児童生徒の育成～主体的・対話的で深い学びを柱とした多様な指導方法を通して～」

②主題設定の理由

グローバル化が進展する現代社会は、様々な価値観をもつ他者たちと議論を重ねて探求し、相互に納得できる解を得る能力が必要とされる。児童生徒たちの他者と共によりよく生きようとする姿勢を育むためには、自己・他者・教材等との豊かな関わりを通して学習することが大切であり、その研究が求められている。

③分科会の研究領域と研究者

【第一分科会】
「道徳の多様な指導方法の工夫」
小山内周平（浦安市立日の出中学校）
【第二分科会】
「道徳科の多様な指導方法の工夫」
數川　沙紀（鎌ヶ谷市立大四中学校）
【第三分科会】
「魅力ある道徳科の教材の工夫と活用」
齋藤　哲之（市川市立下貝塚中学校）
【第四分科会】
「道徳科の評価とその活用」
山本　理恵（東金市立東中学校）
【第五分科会】
「家庭や地域･小中連携を生かした道徳教育」
大島　梓　（長生村立長生中学校）

④講師招聘研修

令和元年 10 月２日（水）に文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の飯塚秀彦先生を講師に招き、道徳科の理論研修を行った。この研修で今後の研究を深めるための多岐にわたる示唆を得ることができた。

（２）開催校における研究発表会

令和元年 10 月 18 日（金）に浦安市立日の出中学校において研究発表会が開催された。当日は、全学級の公開授業と分科会協議が行われた。講師に、千葉大学教育学部附属教員養成開発センター教授の土田雄一先生、千葉市立轟町小学校校長の尾高正浩先生、浦安市教育委員会教育総務部指導課指導主事の青山陽子先生を招き、多様な指導方法と評価の在り方について御指導をいただいた。

２　関東甲信越中学校道徳教育研究大会埼玉大会に向けて

第 50 回関東甲信越中学校道徳研究大会を、10 月 22 日（金）に幸手市立幸手中学校において開催予定である。埼玉県道徳教育研究会では実行委員会を立ち上げ、さいたま市立本太小学校の藤澤美智子校長が実行委員長、加須市立加須東中学校の藤間隆子校長が事務局長にそれぞれ選出され準備を進めている。

研究主題は､「人としての生き方についての考えを深め、よりよく生きる生徒を育てる道徳教育の創造～学習指導要領が求める道徳教育の実践を通して～」である。コロナ禍で開催も危ぶまれているが、道徳科の灯をともし続けられるよう、地道な実践を積み上げているところである。会員の皆様には高所大所からのご指導を賜りたいと願っている。

「人と地域を生かした道徳授業」の推進

令和２年度　全日本中学校道徳教育研究会
副会長　川村　聡子

今年度、石川県学校道徳教育研究会長、そして、東海北陸の代表を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いしたします。

さて、少し私事になりますが、自己紹介を兼ねて私の道徳教育との関わりについてお話しいたします。私は、初任校が道徳教育の研究校であったことと、教育の目的は、人格形成であることから、道徳教育を自分の研究分野にして取り組むことにしました。昭和５９年のことです。また、もともと小学生のころから道徳の授業が大好きだったことも、道徳教育の研究を深めていきたいと思った要因かもしれません。随分長く、道徳教育に関わってまいりましたが、この度、全国の先生方と情報交換等で交流できることを大変うれしく思っております。そして、石川県はもとより日本全国の道徳教育が推進されるよう微力ですが、励んでいきたいと思っております。

今年度、東海北陸代表ということから、本来なら東海北陸の各地域の理事の方と連絡を密にし、より道徳教育の推進に尽力すべきところですが、その連絡がとれていません。そこで、石川県の取組の特色をお伝えしたく思います。

石川県の道徳教育の特色としては、地域連携を重視している点が挙げられます。本県では、県や市の教育委員会から指定を受け、研究を推進している学校と独自で道徳研究を推進している学校があります。今回は、前者の県や市の教育委員会から指定を受けている学校について説明させていただきます。テーマを「人と地域を生かした道徳教育」とし、「考え、議論する道徳」や「主体的・対話的で深い学び」を研究する道徳の授業を推進しています。

「人と地域を生かした道徳教育」の具体的な取組では、以下の３点があげられます。

①地域教材を作成する
②地域の方や保護者をゲストティーチャーとして招聘し、本物にふれる
③授業での学びを道徳通信として発信する

①では、県及び各市町が作成した郷土資料があります。②の取組では、ゲストティーチャーとして、お話していただくだけでなく、小・中学校では、グループで議論する際に、子どもたちのグループの一員として入ったり、大人グループとして入ったり工夫をし、考えの多様化に成果が見られます。③は、学校からの発信だけでなく、双方向の通信になるよう意見や感想をいただくコメント欄付きの通信となっています。

また、地域連携として小・中学校が連携する学校もあります。小中併設の学校や中学校とその校下にある小学校とペアで研究を推進する学校があります。その取組は、道徳実践事例第８集に掲載されますのでご覧いただければ幸いです。

このような取組は、地域と連携をしてこそ道徳教育を充実させることができると考えているからです。本県はこれからも地域とともに道徳教育を推進し、郷土を愛する児童生徒の育成に努めていきます。

最後に、石川県学校道徳教育研究会の今年の取組を紹介します。今年度は、新型コロナ感染症拡大防止対策として、年３回理事が集まる会を２回にし、集まる人数も縮小して実施いたしました。石川県は、小松・金沢・中能登・奥能登の４教育区分があります。年度末には、各地区での実践が集録されます。文書提案となりますが、今後もコロナ禍でもできることを行い、子どもたちの心に響く道徳教育の推進を図っていきたいと考えています。